

前線による豪雨災害

梅雨前線や秋雨前線が活発になって豪雨災害が起こることがあります。通常では考えられないほどの大雨が短時間に一気に降り、河川の氾濫や土砂崩れなどの災害を引き起こします。愛媛県大洲市と高知県土佐清水市の豪雨災害の例をお伝えします。

■梅雨前線による豪雨水害（愛媛県大洲市）

平成7年（1995）7月3日から4日にかけて、四国付近に停滞した梅雨前線により局地的な豪雨となり、大洲上流域の降雨量は240～310ミリを観測しました。大洲第2水位観測所の水位は4日10時30分に最高5.84mに達し、肱川沿川では東大洲地区を中心に約930戸が浸水し、田畑が広範囲にわたり被害を受けたほか、国道56号バイパスも浸水するなど大規模な水害に見舞われました。このため、平成7年度から5年間で直轄河川激甚災害対策特別緊急事業が行われました。その完成を記念して、白滝地区に肱川治水碑が建立されています。＜建設省四国地方建設局大洲工事事務所・野村ダム管理所・愛媛県編「ひじかわと洪水－肱川平成7年7月梅雨前線豪雨－」1995年、建設省四国地方建設局大洲工事事務所編「'95年7月梅雨前線豪雨による被害状況 in 肱川」など＞



■秋雨前線による豪雨災害（高知県土佐清水市）

平成13年（2001）9月6日未明から早朝にかけて西日本に秋雨前線が停滞し、大月町弘見で24時間雨量が520ミリを観測するなど、高知県西南部では記録的な豪雨となりました。豪雨による5市町村の被害は負傷者8人、家屋の全壊25棟、半壊・一部損壊275棟、床上浸水264棟、床下浸水540棟に上りました。土佐清水市では宗呂川、益野川、貝ノ川の浸水被害が甚大でした。宗呂川の下川口観測所の水位は、6日4時にはほぼ平常の水位の0.6mでしたが、3時間後の7時には5.84mへと急上昇し、観測所が水没するほどでした。下川口市民センター前に水位を示した石碑が建立されています。＜高知県土木部河川課・防災砂防課、土佐清水土木事務所、宿毛土木事務所編「平成13年9月高知県西南部豪雨災害」2002年、国土交通省四国地方整備局・高知県編「救ったのは 人のつながり－平成十三年九月六日高知県西南部豪雨災害体験集－」2002年＞

